

社員の皆様へのメッセージ

株式会社 イナテック

代表取締役会長 稲垣 良次

2025. 1
No.377

明けましておめでとーうございます

今年は何年です。キーワードは「金運」とされ、知恵と変革の運氣を呼び込む縁起の良い年とされています。また、脱皮するへびの習性から変化や成長の象徴ともされ、人生の新たなステージへの移行を意味するとも言われています。(Google 検索より)

変革の年と言われる何年に、鈴木社長が舵を取る鈴木丸は出航しました。まさに新たなスタートにふさわしいタイミングとなりました。

- ・金運
- ・知恵と変革
- ・変化や成長
- ・人生の新たなステージへの移行

イナテックにとつても、今変えなくていつ変えるんだ、という変化を起す絶好のチャンスです。

かつて、白物家電やテレビの生産において日本が世界のシェアを牛耳っていた時代がありました。しかし今では、中国や韓国にとつて代わられています。自動車産業もEV(電気自動車)によって中国にシェアを奪われようとしています。

そんな中国と自動車分野で戦うのか、イナテックは大きな岐路に立たされています。イナテックの柱である自動車部品の生産を死守しながら、中国と戦わなくてよい商品群のマーケットに参入し生き残っていくしかないと考えております。

まさしく、へび年のキーワード「知恵と変革」「変化と成長」「人生の新たなステージへの移行」がピッタリなのです。

「金運」を味方にしながら、明るく元気に頑張りますよう。

苦難

(稲盛和夫『考え方』より)

困難や逆境というものを
ネガティブにとらえ、

悲嘆に暮れるのではなく、
志をより堅固にしてくれる

格好の機会ととらえて
敢然と立ち向かうことが大切です。

イナテックにおいても、常に問題という「山」に立ち向かわねばなりません。ビジネスの世界では当たり前ですが、「山」に立ち向かうことは自分を振り返る絶好のチャンスであり、志(自分の目指している方向)が良いか否かを確認できるのです。

最近では、宇宙開発部品や国防のための部品等の引き合いも来 있습니다。このことも、本当にイナテックが世の中の幸せのために役立つのか、地球環境のためになるのかをチェックし考えるチャンスです。

我々の技術が世の中の役に立つのなら、その喜びは計り知れません。家電業界のようになりつつある自動車業界から、他業界への参入を目指すうえで、相手に不足はありません。

さあ、皆で力を合わせ、スピードを上げ、ニュービジネスを獲得しようではありませんか。

艱難辛苦を耐えて、人は成長する

(稲盛和夫『考え方』より)

苦勞もせずに人生を過ごしてきたなら、人間性を高めることなどできず、会社をつくってからも、部下の信望や信頼を集めることはできなかつたでしょう。子供の頃から苦勞を重ねてきたことによって、少しでも人間が練られ、私という人間がつくられていったから、経営者として務まったのかもしれません。

逆境に置かれながらも、むしろ与えられた逆境を天に感謝するかのようないきいきとした健気に生きていく。そのように生きてきた人は、その経験が必ず、後々の素晴らしい幸運につながっていくと私は信じています。

コロナ不況がやってきて、SDGsやカーボンニュートラルの時代になり、EV化の流れが止まらない中、これらに真剣に立ち向かつていけば必ず新しい技術が身に付き、その技術が世の中に役立つのだらうと思いません。

これからの日本は、少子高齢化が進み、現在の出生者数から見ても、生産人口が減少することは分かっています。そして海外からの労働者が増え、それによって必ず問題が起きます。現に欧米では、移民問題が喫緊の課題になっており、そうした状況が日本でも起りうるのです。

そんな状況の中、これからの日本はどうすれば良いのか、その答えは『生成AI』を搭載したロボットの活用しかないと思っています。つまり「学習するロボット」「精度の高いロボット」「力強いロボット」「人間と共存できるロボット」等々の活用です。

菜根譚後集 一〇八

怨因德彰。故使人德我、不若德怨之兩忘。仇因恩立。故使人知恩、不若恩仇之俱泯。

怨みは、一方に恩恵を施すことにより他方に現われるものである。だから人に恩恵を感じさせようとするよりは、恩恵も怨みも両方とも忘れさせる方がましである。また、仇は、一方に恩恵を施すことにより他方に現われるものである。だから人に恩恵を感じさせようとするよりは、恩恵も仇も両方とも消え去るようの方がましである。

イナテックとしては、まずロボットを作る「工作機械の部品」や「ロボットの内臓部のギヤ部品」といった分野への挑戦をします。

また、『生成AI』をつくり出す「半導体部品」への挑戦も考えています。そして、必ずやってくるカーボンニュートラルの世界に向けて、水素関連事業の部品も視野に入れながら生き残りをかけて戦います。

イナテックグループの皆さんも、これまで培ってきた自動車部品加工技術を生かし、柔軟な発想でついてきてください。自動車部品を生産する技術はあっても、他業界となればそれなりの難しさは必ずついて回ります。今までの既成概念を「白紙」にして、お客様の要求を真摯に受け止め、新たな分野を開拓していきたいと考えています。

この2025年が、皆様にとつて心身ともに良い年となりますよう頑張ります。よろしくお願いいたします。

